

令和2年度2月 市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和3年2月12日（金）午後3時00分～3時45分
場所 市役所2階 第1委員会室
出席 市政記者クラブ8社

会見内容

1. 話題提供（2項目）

1. 新型コロナウイルスワクチン接種における接種体制について

- 最初に、新型コロナウイルスワクチン接種における接種体制についてです。
- 新型コロナウイルスの予防接種につきましては、2月中に先行して、北海道が医療従事者の接種を行います。
- 次に、市町村が主体となり、65歳以上の高齢者から順次、接種を行っていくことになっており、釧路市におきましても、急ピッチで接種体制の準備を進めているところであります。
- スケジュールといたしましては、4月から6月中旬までを目途に65歳以上の高齢者、約5万6千人に対し、1人2回の接種を完了させることを目指しております。
- そのため、平日は市内の診療所を含む医療機関の医師の協力を得て個別接種を、土日は基幹病院のバックアップを受けて、医療機関もしくは数カ所の特設会場での集団接種を行うことで、現在、医師会や各医療機関との協議を進めているところであります。
- また、高齢者の居住施設（121施設、定員数4,135人）につきましても、各施設と提携する医療機関などのご協力をいただきながら、施設内で接種を行うことを基本として、準備を進めているところであります。
- その他、現在のところ、ファイザーの予防接種液を保存するディープフリーザーを市役所等に配備し、小分け、管理して定期的に配送する体制を考えております。また、予約についてはコールセンターを活用することを予定しております。いずれも国からの詳細情報が届き次第、接種体制を構築したいと考えております。
- このたびのワクチン接種につきましては、市内の医療機関の皆様、市民の皆様のご協力なくして、接種が成り立たないことをご理解いただき、改めて、この場を借りて、ご協力をお願いしたいと存じます。
- 続いて、新型コロナウイルスのワクチン接種に係る庁内の体制についてです。
- 本日、「釧路市新型コロナウイルス感染症対策本部会議」の部会として「ワクチン接種実施本部」を設置しました。

- 伴副市長を部会長とし、こども保健部長と福祉部長を副部会長、健康推進課、介護高齢課および障がい福祉課の各課長および職員を部会員としております。
- なお、実施本部の体制などについては、ワクチン接種の対象に応じ、柔軟な対応をしてまいりたいと考えています。

2. 人口減少対策について

- 続いて、人口減少対策についてです。
- 総務省が公表いたしました、2020年の住民基本台帳人口移動報告によりますと、釧路市は、転出超過が1,041人となり、道内では最多となったところでございます。
人口減少が続いていることは事実として重く受け止めております。
- 人口減少の要因としては、「自然減」、つまり死亡数と出生数の差と「社会減」、転出転入の差、とがあり、地方都市においては、社会減対策が重要であると考えております。
- 国勢調査の結果から考えますと、15～19歳の方が20～24歳になるときに進学や就職などにより転出超過することが「社会減」の要因とみられ、この、次の親となる世代の転出超過を抑えることが重要となっています。
- 若い世代が釧路市で働き、安心して生活することができるため、経済の活性化策として、企業の持つ強みを引き出し、伸ばす、「釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz」により地元企業の支援を行っております。
また、商工会議所や地元企業、関係機関等との連携協力体制により地元の企業を若い世代に知ってもらう取り組みも行っております。
- 釧路市で安心して子育てを行っていただくための取り組みとしましては、今年度から「子育て世代包括支援センター事業」を実施し、母子保健コーディネーターによる妊娠期から子育て期にかけての切れ目のない支援を行うとともに、就学前児童の医療費の無料化に加え、今後は18歳以下の入院医療費を無料とすることで、より一層の子育て世帯の経済的負担の軽減を図ることを検討しているところです。
- このような取り組みを進めることで、転出超過は続いているものの、近年、縮小傾向となっており、引き続き、経済活性化に努め、教育などの人材の育成、産業の基盤整備、働きやすい環境をつくるための子育て支援などに重点的に取り組んでまいります。

4. 質疑要旨

(質問)

- ・ 新型コロナウイルスのワクチン接種についてですが、まず、対象者に「はがき」のようなものを送付して、予約をしていただいてから、接種を受けるという仕組みにしたいということでしょうか。

(市長)

- これは、国のルールになっております。3月中に「接種券」を自治体が配布して、それをもとに、例えば、集団接種の場合であれば、会場がどこであるといった形になります。私どもが、現在、想定しているものは、医療機関にご協力をいただき、予約をいただいて行っていくというものです。今まで、ワクチン1瓶当たり6回接種ということで、6の倍数での予約体制ということでありましたが、昨日、報道で、注射器の関係で、5人分ということが出ておりましたので、5の倍数で、5・10・15人といった形で、予約をとっていきながら進めていけるよう、コールセンターを活用しながら行っていく仕組みをとっていきます。

(質問)

- コールセンターは、ワクチン接種実施本部の中に置くということでしょうか。

(市長)

- コールセンターは、市役所の中で持つのか、また、地元にもコールセンターもありますので、例えばそれらと委託契約といったことも考えられると思います。

(質問)

- ワクチン接種において、医療機関等に働いている方々には、負担が増えることになると思うのですが。

(市長)

- 色々な相談の中で、医師会の皆様方からは、まずは、このような危機を乗り越えていくためには、それぞれの医師が、しっかりとした体制をとっていきましようとなっているところでありまして、本当にありがたいことであると思っております。しかしながら、高齢者、そして一般の方々というところまで踏まえますと、長丁場になってくることでもあります。平日の医療機関で行っていく、また、土日の基幹病院で行っていく体制を支えることは、必要であると思っております。現状は、医師会から、そのような形で進めていくといった言葉をいただいており、大変、心強く思っているところでもあります。

(質問)

- ワクチン接種は、2月中に、先行して医療機関からということですが、具体的に、いつ、どこで、どのような体制が始まりますでしょうか。

(市長)

- 医療機関向けの接種につきましては、北海道が実施する形になっております。

(質問)

- わかっている情報はないでしょうか。

(市長)

- 今まで報道で出ているような情報となっております。釧路であれば、報道では労災病院が接種会場になって進めていくということです。そこに冷蔵庫が届いたということで、こちらは、北海道が進めているところです。我々は、4月から始まる市町村が実施主体となる65歳以上の接種からとなります。

(質問)

- 2月の接種については、市が関わることはないのでしょうか。

(市長)

- はい、そこは完全に北海道が行っていくものです。医療機関の方々には、その後の知見的部分も含まれているということです。どのような状況になるかということも、当然、北海道の方ではしっかりと把握をしながら、そして、次に向けてどのようにするかということになると思います。私どもは、まずは、4月から

始まる接種について、遅滞のないよう、しっかりと進めていくように考えております。

(質問)

- ・ 65歳未満の一般の方々のワクチン接種についても、こちらのコールセンターで予約をして、個別プラス集団でという方式を考えていらっしゃるのでしょうか。市内の診療所については、規模として、どれぐらいのエリアに1つ設けるのかについて、教えてください。

(市長)

- ・ 現在、高齢者の方々を6月中旬まで、1人2回の接種を完了できるような形で進めているところです。それから、65歳未満の一般の方々の接種となっていきますので、そこも同じ体制でという形で考えております。市内の診療所を含む医療機関のご協力を得てということについては、先日、川崎市で模擬的に行った際に、時間がかかったものは、集団接種の場合は、最初の間診でした。そこで、かかりつけ医の先生方は、日頃から病院の利用者の皆さんをご存知であり、ワクチン接種等を行っていくこととなりますと、間診の部分もスムーズに進みますし、あわせて、その後のアレルギーの対応等も含めて行っていくことが望ましいと考えておりました。ありがたいことに、釧路の場合は、基幹病院もそうでありまして、開業している先生方や、医師会の皆さんも、可能な限り協力していただけるということでもあります。集団接種等で会場を確保することとなりますと、その場所に医師や看護師を派遣する必要があり、通常どおりに病院が動いている状況では、長期間にわたって実施することは不可能であります。このことから、まずは、地元の医療機関の皆様方に、ご協力をいただくということでもあります。あわせて、基幹病院としてご協力をいただいているところも、通常時は、やはり様々な医療を担っていただいているところでもありますので、土・日曜日という形で、医療スタッフの皆様のを借りながら、集団的に行っていくという形です。最終的な数等については、まだ出ていないところではありますが、このような方向性で進めていく状況です。

(質問)

- ・ 集団接種を想定している場所は、既にあるのでしょうか。

(市長)

- ・ 会社単位の部分のところをイメージしたかもしれませんが、私どもは、その部分については入れておりません。あくまでも、まずは、かかりつけ医といった形の中で進めていきます。集団接種という言葉になると、先程、お伝えしたとおり、基幹病院が、土・日曜日の中で、集団接種の数を確保し、そのような形をできるように協力をいただこうというところです。しかしながら、基幹病院の中でも、スペース的なことで、病院近くの別会場を確保することも想定されますので、その運営につきましては、その病院が進めていただくこととなります。

(質問)

- ・ 基本的には、平日のかかりつけ医と、土日の基幹病院で実施していただき、基幹病院側で別途用意があれば、その病院に近いホールやセンターを使うかもしれないということでしょうか。

(市長)

- ・ そういうこととなります。

(質問)

- ・ 他の自治体では、ホールを借りる等、場所を用意した事例がありますが、釧路市ではどのようになっていますか。

(市長)

- ・ 会場を借りて、そちらにスタッフの方々が行きながら、接種を行っていくやり方はあると思います。今回、土日の部分の基幹病院にもキャパシティがあるところとないところ、様々な状況があります。基本となるものは、医師会の皆様のご協力をいただいている平日のそれぞれの診療所等と、あわせて、土日の基幹病院にご協力をいただくものであります。本市の場合は、12週間の中で、65歳以上の高齢者56,000人の向けの接種体制をとるということです。ワクチンは、1回目の接種をし、3週間空けて2回目の接種をするという形で進めますので、場所的にどこになるかというよりも、ワクチンの数の確保や処理等についての体制づくりを進めているところであります。

(質問)

- ・ 他の自治体では、人事発令を行い、担当の役職を置いている地域もあるようですが、釧路市の場合は、今ある役職で、部会を作ったということでしょうか。

(市長)

- ・ 高齢者の中でも、特に気にしていたところは、施設に入居している方々になります。現在、4,100人以上の方が施設に入居されており、あわせて、在宅でいらっしゃる方の人数も、福祉部の方で押さえております。65歳以上の方々でありますので、色々とお相談であるとか、包括支援センターやケアマネージャーといったところもイメージしておき、福祉部が入っています。あわせて、組織としては、こども保健部は、まさに健康推進課で、普段から医師会も含めながら、色々とお打ち合わせをしているところであります。現在は、65歳以上の方々を対象とし、現状を把握した中で連絡を取りながら進めていくために担当部長が入り、それぞれのセクションから案内を出せるような形が必要であるということを進めております。また、続いての一般の方々向けの接種については、接種対象によって、改めてどこかで辞令を出してやっていくということではなくて、日頃の業務との連携の中で、細かな情報がしっかりと伝わるように行っていきたいということで、このような部会制となっております。

(質問)

- ・ 全市民が接種を終えるのに、どのぐらいかかることを想定していますか。

(市長)

- ・ 今の段階では、全市民の終了時期の想定はない状況です。まずは、12週間の中で65歳以上の方々の接種を進めていきたいと思いますということ。一度に行うというのではなく、56,000人を2班ぐらいに分けて、少しタイムラグを置きながら進めていくことを想定しております。その後の対象者につきましては、16歳以下の接種はないので、計算上では10万人を切ります。このような形で進めていくこととなりますので、より効率良く行っていくことができればと考えております。ワクチンについては、解凍後5日間で使い切る、封を開けたら6時間以内に使い切るということでもありますので、例えば、午前の部、午後の部で実施をするといったこともあります。今は、まず、65歳以上の方々への接種をスムーズに進めていけるように取り組んでいくことが、次の接種に繋がっていくと考えております。

(質問)

- ・ 冷蔵庫は、市役所等に配備するということですが、市役所以外の配備を想定されている場所がありますでしょうか。

(市長)

- ・ 市内の中で、管理・配送体制を取るのであれば、1カ所が望ましいと思っております。そうすることによって、配送を進めていくにあたり、数の把握等に適しているのではないかと思います。釧路地域の他にも、阿寒、音別ということではありますが、各現場において、数の実態等、行政センターは押さえておりますから、そこをしっかりと行っていけば可能であります。そうしますと、1カ所にまとめておいた方がベストではないかと、お話をさせていただいているところでありますが、最終的には、近々のうちに、どのような体制で行うかについて、相談をして決定すると思っております。

(質問)

- ・ 冷蔵庫の配備は、市役所ということになりそうですか。

(市長)

- ・ イメージ的には、私はそのように考えておりますが、決定した際には、お伝えいたします。

(質問)

- ・ 人口減、社会減にも通じる部分もあるのですが、日本製紙との実務者協議の進捗状況は、どのようになっているのでしょうか。

(市長)

- ・ 日本製紙さんとの協議については、1月から行っているのですが、現在、こちらにつきましては、会社の方から発表しないでいただきたいと言われているところです。私共といたしましては、この協議の中で、再考を願うという形で、どのようなことを模索されてきたのかというお話と、併せまして、私どもの方も、このような事業展開が出来ないであろうかということ、北海道や経済界も入った形で、相談をし、提示させていただいたところであります。この2月にも、それに対しての色々なお答えが来るかと思っておりますので、次にどのような形をとっていくのかということ、進めていきたいと思っております。やはり色々な情報発信の仕方についても出てくると考えておりますので、もう暫く、しっかりと整理をしていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 2月に、現在、このような状況になっておりますということ、会社の方と発表出来るのでしょうか。

(市長)

- ・ そのようなことは、一切出来ない状況になっておりまして、何もお伝え出来ない状態になっております。そのような進め方につきましても、今月中には出来るだけ早く示していきたいと思っております。

(質問)

- ・ 日本製紙の関係で、先日、新聞・テレビ等で報じられた内容として、日本製紙は新会社を作って、90人位人を残す新しい事業を始めますというお話がありましたが、把握されておりますでしょうか。また、それについての受け止めがあればお願いいたします。

(市長)

- 色々な協議の中でお話をしたことについては、一切表に出さないということで協議がスタートしたところでもあります。しかしながら、色々なところで、会社の社員の方々、組合の方々に提示されていた形のものが、報道に出ているということでもあります。私どもの協議の中身が、どのような形になるのかということがありますので、そのようなことも踏まえて、今月中に、出来るだけ早く、どのような形が示せるのかについて、整理していきたいと考えております。新聞等に出ていた報道については、見ております。

(質問)

- 実務者協議は、何回位行っているのでしょうか。

(市長)

- 1月から行っていることは間違いないです。先程もお伝えしたとおり、色々な検討したことや、私共が提案したことに対して、2月には、回答が来るということですので、今後の進め方等について出していきたいと思っております。今の段階では、そのようなことは一切出さないでいただきたいといったところから始まっている状況です。

(質問)

- 「SL冬の湿原号」が、全般検査をJRが行って、継続することになったということでもあります。沿線自治体も、全般検査は大きな費用が掛かるということで、非常に心配していた部分であると思うのですが、このたびの継続の受け止めについて、また、観光の部分についての期待を教えてください。

(市長)

- 一昨日に発表されたということで、私どもも、「SL冬の湿原号」が継続していただけるということで、大変ありがたいことと思っております。SLについては、8年でオーバーホールを行わなければいけないということで、本当に大きな費用が掛かるということですが、JR北海道の方で、この釧網線の中を走らせるということ、継続して進めていっていただけるというお話を聞いて、大変嬉しく思ったところです。あわせまして、SLもそうありますが、客車につきましても対応をしていくと伺っているところでもありますので、非常に魅力を増した中での運行ができることになるということで、大変感謝をしているところです。このような素晴らしい体験等ができることを、私どもも発信していきながら、地元としても一緒になって盛り上げていくことができると考えております。

(質問)

- 本日、正式に東京五輪・パラリンピック組織委員会の森会長が辞任するという事です。釧路市はホストタウンで、聖火リレーも実施されるということですが、あの発言によるマイナスの影響はありましたでしょうか。また、今回の辞任について、どのように捉えていますか。

(市長)

- 森会長が辞任されて、川淵氏がトップに代わられるといった報道ということですが、私どもは、オリンピック精神を大事にしながら、あわせて、パラリンピックのベトナムのパワーリフティング、陸上の選手がこちらに来ますので、ホストタウンとしての取り組みについても進めてきたところでもあります。私たちは、日本のホストタウンの一員という思いの中で、オリンピックを盛り上げ、次

の時代にしっかりと引き継いでいけるよう、全力を傾けていくという思いであります。なお、本市においては、マイナスの影響はありません。